

「秋の東北鉄道旅行 (16)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

角館(かくのだて)は、秋田県仙北市(せんぼくし)の地名の一つである。過去には「角館城」の城下町として栄えていた。西に檜木内川(ひのきないがわ)、東に丘陵地があり、地形的に自然の要害となっていたことが大きいという。



「武家屋敷通り」へは、駅前からまっすぐ進み、つきあたりの「角館郵便局」を右折するだけで行きつける。この郵便局周辺の建物も、どこか歴史を感じる。



地区には各所に城下町の面影が残っている。写真は有名な武家屋敷通りではないが、現在の駅から近い場所でも、かつての武家屋敷跡を見ることができる。



角館観光の目玉である「武家屋敷通り」には、自転車で5分ほどで着いた。歩くと20分ぐらいかかるので、「急ぎの旅行者」にとっては、かなりの時間の節約である。さすがに観光客が多かった。秋田新幹線の開通で、年間約200万人が訪れるようになったという。



屋敷は創建当時のものではないが、それでも伝統的な建築様式が保存されていて、その建物の配置を見るだけでも興味深い。ちょうど秋が深まっていく時期だったので、木々が色づき始め、見事な調和を見せていた。屋敷によっては内部の一部の部屋を見学できるものもあり、観光客の人気になっている。



角館にも「観光人力車」がある。浅草、嵐山(京都)、鎌倉などでも見かけるが、車夫さんが案内をしながら観光できるところが良い。次回は風を感じながら乗ってみたいと思った。